

「タビナカ」の川・水辺の体験プログラムを 「トキ（時）消費」にブラッシュアップする

株式会社 JTB パブリッシング エグゼクティブ・アドバイザー 楓 千里

「タビナカ」の体験プログラムが注目

旅行・観光業界では旅行のプロセスを「タビマエ」「タビナカ」「タビアト」の三段階で表しており、最近では新聞などのメディアで一般的に使われることも多く、目にされた方もあるだろう。旅行に行きたいと思う気持ちの醸成や、旅先の情報収集、計画、決定後の予約までを「タビマエ」、実際に出発して交通機関などでの移動、目的地での観光やアクティビティ、グルメなどの旅行中を「タビナカ」、旅行から戻り思い出や記録の整理や、SNSなどでシェアするのを「タビアト」。非日常の時間と空間で、思わぬ出会いや発見を楽しむ「旅」の情緒とはかけ離れている無機質な三段階の用語は、個人的には如何なものだろうと疑問を抱くも、発達したインターネットなどなどのテクノロジーを活用し、各段階での最適なサービスにししのぎを削る旅行業界やIT業界の共通用語として、今や便利に使われている。

テクノロジーを活用したサービスやプログラムが次から次へと開発されている中で、「タビナカ」における体験プログラムは、人と人を結び付けるアナログプログラムだ。旅行を印象づける重要なコンテンツとして様々な分野で開発やブラッシュアップが進んでいる。日本人のみならず、年間訪日客4000万人を目指しているインバウンドにおいても、「モノ消費」から「コト消費」の流れに乗り、日本ならではの体験に関心が高まり、各地の受け入れ側もプログラムの開発に注力している。

当社の主たる事業である旅行情報誌『るるぶ』においても、読者からのリクエストも多い体験プログラムの紹介に誌面を割き、編集部員も情報収集に力を入れている。

東京の選抜100の体験本に13の川・水辺体験プログラムが

北海道、沖縄、京都に並ぶ販売部数の多い『るるぶ東京』でも、毎年体験プログラムの掲載が増えている。東京都内は一般的な観光情報だけでも膨大な量があり、一冊の中での紹介には限界がある。そこで、東京都内の選りすぐりの体験プログラムを集めたJTBのムック「いま気になる東京100の体験」（2018年4月）の企画・発行となった。長年『るるぶ東京』を担当している編集者や、編集協力会社のメンバーが打ち合わせを重ね、首都圏在住者のみならず、東京に観光で訪れた方にも是非体験してもらいたいプログラムを100に絞り

紹介している。

歌舞伎や相撲稽古見学などの「伝統にふれる」、お花見や花火などの「四季を楽しむ」、特別なスポットや時間帯で「みる」、アドベンチャーや忍者体験などの「うごく」、伝統工芸などのものづくりを体験する「つくる」、定番の「たべる のむ」の6分野に分けて紹介している。その中で川・水辺に関するものは、5分野にまたがり13プログラムにのぼり、100選で1割以上が川・水辺を占めるのは、まさに水都東京の面目躍如といえるだろう。



「いま気になる 東京100の体験」の表紙。定価900円（税別）電子書籍版もある

夜の kayak ツアーは、東京の新しい夜の遊び方

目黒川のお花見クルーズや、屋形船からの花火見物などすっかりお馴染みのプログラムやツアーもあるが、一方では旧中川をカヤックで水中散歩しながら、ライトアップされた東京スカイツリーや水面に映える都会の夜景が楽しめるツアーは、東京の新しい夜の遊び方として注目されており、見開きで詳しく紹介している。初心者でも気軽に参加できるのも魅力のひとつで、乗船するフォールディングカヤックは安全性に優れ、女性や子供でも安心して体験できるプログラムだ。まずは旧中川近くの大島小松川公園駐車場に集合し、準備



「Outdoor Sports Club ZAC」が提供する夜の kayak ツアー。季節によってライトアップの色が変わる、ふれあい橋もみどりのひとつ

体験の流れ



1 駐車場に集合しパドルの漕ぎ方を教わる



2 川にカヤックを浮かべたらよいよエントリー



3 スタートしてすぐもみじ大橋を越える



4 首都高速7号線の真下を漕いで進む

体操とパドリング（漕ぎ方）の講習を受け、川にカヤックを浮かべ、エントリー。ガイドと一緒に乗船する。暗闇の川を静かに進み、まさに非日常の体験だ。川面から見上げると前方に遮るものがなく、東京スカイツリーのライトアップ全貌が眺められるのも、カヤックならではの体験。

ツアーでは東京スカイツリーの眺望だけでなく、普段とは違った視線で眺める光景とも出合える。高速道路の裏側や、地上を歩いている人や橋を見上げるのは新鮮で、ビルの多いエリアでは、照明が水面に映り、あたかも光の中を漕いでいるようで、幻想的な気分にもなれる。約1時間30分ほど体験したあとは、地元出身のインストラクターから、下町トレビアやグルメなどの情報が提供されるのも、心憎いサービスだ。

上記のカヤックや、溪流でのキャニオング、ラフティングなど参加のハードルがやや高いと思われるがちなプログラムに関しては、体験の流れをコマ割りの写真で分かりやすく説明しているのが、本書の特徴でもある。日野市の浅川河川敷を馬に乗って散歩するホーストレッキングや、滝修行など川や水辺を上手く使ったプログラムも紹介している。

東京の川・水辺体験プログラムのポータルサイトの構築を！

プログラムを100に絞っているのに、13しか紹介できていないが、都内には知られていない、多彩な川・水辺のプログラムがあり、運営者が知恵を競い合っている。プログラムの存在そのものを発信し、知ってもらい、参加を促すには、川・水辺のキーワードで、伝統文化からアドベンチャーまで分野横断のポータルサイトの構築も考えてよいのではないかと思う。タビナカ体験プログラムのオンライン予約サイトはいくつかあるが、プログラムが細分化されているケースが多く、目的が決まっている人には見つけやすいが、東京の川・水辺で何か面白い遊びはできないか？と考えている人には探しにくいのが現状だ。



「コンセプトリバーハウス」は多摩川がベース。都内で迫力満点の体験ができるのが魅力

「タビナカ」の「トキ（時）消費」へ 体験プログラムのブラッシュアップ

モノ消費からコト消費に移行し、「タビナカ」の体験プログラムの開発が進む中で、その瞬間、その場所にいなければ体験できない「トキ（時）消費」が重要視されるようになってきている。今だけ、ココだけの特別感や熟練したガイドやインストラクターとの出会いは、SNS 上でも話題となり、積極的に拡散するのは日本人、外国人共通している。夜のカヤックは、まさに東京を密やかに楽しむ、地元出身ならではの口コミ情報も入手できる、飛びっきりの「トキ（時）消費」だろう。体験プログラムのブラッシュアップは、「トキ（時）消費」を意識した段階に入っていると考える必要がある。

個人的な体験で恐縮だが、先日渡良瀬遊水地を利根川上流河川事務所三橋さゆり所長に案内頂く貴重な機会を得た。渡良瀬遊水地をインバウンドも含めて、観光・交流の場としてさらに発展させたいとの三橋所長の構想の解説と共に、時間が経つのも忘れるほど充実した現場見学となった。Hey! Sey! Jump のテレビ番組で河川の師匠として登場した三橋所長の、河川への深い知見と溢れる愛がひしひしと伝わると同時に、コウノトリの「ひかるちゃん」にも遭遇できるなど幸運にも恵まれた。今後渡良瀬遊水地を意識し、PR せねばと強い思いを持つようになり、まさに「トキ（時）消費」の時間であったのは間違いない。



「マリアの風」では多摩の自然を身近に感じられる
ホーストレッキングプログラムを提供している

三橋所長は、体験プログラムも充実させる上でも渡良瀬遊水地の歴史・文化・環境・治水をしっかりと伝えられるインタプリターの育成に意欲を持っておられた。体験プログラムは内容の面白さやワクワク感は重要だが、何といても、プログラムを運営・進行するガイド・インストラクター・インタプリターの人柄、技量、コミュニケーション力が問われる。旅行者との出会いは一期一会だが、もう一度トライしたい、知り合いに勧めたいと体験者が積極的に発信してくれるようであれば、しっかりと「トキ（時）消費」を楽しんだ証とも言える。

「いま気になる東京 100 の体験」に掲載されている川・水辺の体験プログラム

	体験プログラム	開催地・主催者
伝統に触れる	江戸の川音 和船の櫓と櫂	横十間川親水公園 和船乗船体験
四季を楽しむ	のどかに春うらら 水辺でお花見	目黒川クルーズ他
	昔ながらの屋形船から江戸の花火を見る	花火屋形船
みる	日本橋発のクルーズ旅で江戸から平成の時代をめぐる	神田川クルーズ
	羽田空港沖へのクルーズ 大迫力の飛行機ハントツアー	羽田クルーズ定期便
	東京港の役割を視察船に乗って学ぶ	視察船新東京丸
	夢体験でしょ? 水陸両用バス	TOKYO NO KABA
うごく	奥多摩で溪流すべり	グランデックス奥多摩ベース
	荒々しい多摩川上流をラフティングで下る	コンセプトリバーハウス
	夜のカヤックに乗って東京スカイツリーを眺める	Outdoor Sports Club ZAC
	都内で気軽にホーストレッキング	マリアの風
	御岳山の宿坊で滝修行に挑む	宿坊 静山荘
たべる のむ	屋形船に乗って和風クルーズディナー	晴海屋